とらいあんぐる

第54号

編集
発行 鯖江市ＰＴＡ連合会

住所：福井県鯖江市長泉寺町1丁目9-20
鯖江市民活動交流センター内
TEL:0778-54-7055
FAX:0778-54-7058
E-mail:cpta@sabae-npo.org
HP:http://www.sabae-npo.org/cpta/

CONTENTS

●会長挨拶……P1
●平成24年度活動基本方針・各委員会活動内容
●絆プロジェクト事業報告 ……P2・3
●研究・研修会取材報告 ……P4
●平成24年度役員紹介
●市P掲示板
●編集後記

ごあいさつ

鯖江市PTA連合会 会長
岸本 直樹

平素より、保護者の皆さまにおかれましては、鯖江市ＰＴＡ連合会の活動に対しご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

今年度、市Ｐ連では子どもと親が共に学びあう一年に出来ればと思っております、親子の語らいや、各単位ＰＴＡの皆様にスポーツの交流や講演会などの活動を通じて、親睦や情報交換を共有していただける様にと考えております。さらに各単Ｐでの事業紹介や県Ｐ・日Ｐからの教育情報を発信してまいります。

また、昨年から東日本大震災の復興支援に対し、未来を担う子ども達がやさしさや思いやりの心をもてる活動を行ないたいと考え『絆』プロジェクトこどもふれあい事業を行ないましたが、私たち大人が思っていた以上に子ども達はしっかり現状を受け止め、これからの自分達が何をしていくかを考えるきっかけになったと思います。

最後になりましたがメッセージうちわの作成におきましては各単Ｐの皆様にはご理解とご協力賜りました事、厚く御礼を申し上げます。

平成24年度活動基本方針

基本方針

(1) 単位ＰＴＡへの支援
各単Ｐでの活動のアイデアを出し合い工夫と楽しいＰＴＡ活動の活力を考える
スポーツ交流会を通じ単Ｐ内、市Ｐ内の互いの理解と親睦を図る

(2) 教育力の向上につながる支援
親として子と共に「気づき」「やさしさ」を感じる家庭づくりを考える
学校と保護者とのつながり信頼を深く広く考える

(3) 広報による支援
市・県ＰＴＡでの情報を提供しＰＴＡ活動の関心を高めよう

(4) 東日本大震災の復興への協力
子どもが思いやりの心に気づく活動

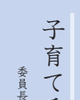
(5) 関連団体ならびに地域諸団体との連携、協力を図る

各委員会の主な活動

総務委員会

委員長 内田 嘉平治

副会長 西川 善裕

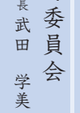


副会長 斉藤 力

当委員会では、①総会（5月・12月）理事会の設営および運営を行います。②次年度の会長選考委員会を担当いたします。③次年度会長および常任理事についての見直しを行ってまいります。

広報委員会

委員長 島津 修一



副会長 二木佐緒里

広報委員会では、①広報誌の発行（年2回）を行います。②市Ｐ連ホームページの充実を行います。

単Ｐ支援委員会

委員長 木下 幸太郎

当委員会では、①単位ＰＴＡ相互の連携と支援を行っていきます。②会員のスポーツ交流事業として11月に、ソフトバレーボール大会を開催いたします。

子育て委員会

委員長 武田 学美

委員会では、単Ｐ支援委員会と協力し、子育て支援のための情報交流活動、子どもたちの安全安心確保に関する活動を行います。本年度は、11月に家庭の教育力や親の資質向上に向けた子育て研修会を実施します。また、より良い給食提供を目指し課題解決に向けての活動を行います。

ふれあい委員会

委員長 佐飛 康央

本年度特別委員会として、東日本大震災の復興に対し、子どもたちが思いやりの心を持てる活動として岩手県大船渡市の方にて「『絆』プロジェクトこどもふれあい事業」を行います。

レポート！ 地区別ＰＴＡ研修会（丹南ブロック）

広報委員会 納村 太郎

六月三十日（土）午後一時三十分から越前町朝日生涯学習センターにて右記の研修会が行われました。

仁愛大学教授 堀江 和代 氏による「食べる力は生きる力〝今、なぜ食育か？〟」のテーマの下、非常にためになる講演が行われ、参加された皆様の食育への意識を高める素晴らしいものとなりました。実践発表校として越前市吉野小学校と越前市武生第一中学校がＰＴＡ活動を報告しました他の単位ＰＴＡ活動を知ることができる良い機会でした。

「ケース研究会」に参加して

子育て委員長 武田 学美

七月二十一日（土曜日）、夢みらい館・さばえにおいて、社会を明るく運動「ケース研究会」（鯖江更生保護女性会による主催）が開催されました。

最初に、鯖江警察署生活安全課長 池端一氏に、いじめ、非行の増加、その特徴についてお話をいただきました。非行を防ぐためには、家庭での会話、悩みを聞いてあげることが大切で、気掛かりなことがあれば、生活安全課やサポートセンターに相談するとよいそうです。後半は、事例を通してケース討論が行われ、原因や背景、親のあり方について、活発な意見交換ができました。家族で話し合うとよい、などの意見もあり、愛護センター、各地区の保護司に相談するという具体的な方法も教えていただきました。最後に、「社会を明るくする運動」とは、犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更正への理解、犯罪や非行のない明るい社会を築く全国的な運動です。もっと多くの人にこの運動を知ってもらうことが大事だと感じました。

参加レポート 第68回東海北陸ブロック ＰＴＡ研究大会 富山大会

平成二十四年十月十二日（土）・十三日（日）

テーマ「見直そう親子のふれあい～いいがに話さんまいけＡＮＫＵ」

副会長 二木佐緒里

一日目は、第一～第六分科会に分かれて実践発表があり、第二分科会では福井県代表発表校の大野市上庄小学校の「花いっぱいえがおいっぱい あいさついっぱい ～親子の絆を深め、明るく健やかな家庭を築くために～」でした。「花いっぱい」は、地域のイベント「越前大野名水マラソン」大会のお手伝いで、花を親子で植えて親子で育て、ランナーを応援するというものである。「えがおいっぱい」は、花を育てることを通じて家庭で笑顔が咲いた瞬間を皆で共有することの素晴らしさを体感できて、笑顔あふれる素敵な瞬間になっていた。

二日目は、記念講演では「行列ができる法律相談所」レギュラー出演の菊池幸夫弁護士による『出会いの人生から学んだこと』の講演を頂きました。夫婦間、夫婦と親子、そして社会人としてのコミュニケーションを上手く取れることで、良い対人関係が生まれる。そのきっかけが「あいさつ」です。「あいさつ」は顔をみて目をみて、顔と顔を見合わせて声を出すからコミュニケーションが取れるようになる。親として今大事なことは自分の経験をつたえることはとても大事ですが、それを押し付けることがない様に、親が見本をみせて親がやっている姿勢を見せていくことで、子どもも見習うようになる。そして自分から進んで出来るようになっていきます。大人も子どもも「お互いを大事にすること」を忘れなければ素敵な関係が築けると思います。たくさんの人との出会いを大切にして素敵な人生を学んでいきましょう♪

平成24年度役員紹介

会長 岸本 直樹
副会長 西川 善裕（東陽中）会長会代表
斉藤 力（惜陰小）ふれあい・広報担当
二木佐緒里（鯖江中）子育て担当
屋木 洋一（鯖江中）校長会
常任理事 内田嘉平治（東陽中）総務委員長
島津 修一（鳥羽小）広報委員長
木下幸太郎（中央中）単Ｐ支援委員長
武田 学美（鯖江中）子育て委員長
佐飛 康央（立待小）ふれあい委員長
理事
《総務委員会》
石本 一道（鯖東小）
竹嶋 誠嗣（中河小）
《単Ｐ支援委員会》
山本 陽一（めだかこども園）
菱川 彰大（豊小）
高島 浩昭（鯖東小）
堀川 茂樹（北中山幼・小）
加藤 健（進徳幼）
《子育て委員会》
窪田 芳房（鯖江幼）
《ふれあい委員会》
早川 健治（吉川小）
佐々木哲也（神明小）
梶間 正也（神明幼）
服部 寿彦（河和田小）
森陰 寛治（片上小）
《広報委員会》
増田 智志（立待小）
納村 太郎（進徳小）
監事 新井 光雄（鯖江高）
宮永 勝（丹南高）
顧問 橋本 秀次（前年度会長）
田村 康夫（県議会議員）
事務局 三津谷雅美（鯖江中）
嶋野 尚美（さばえＮＰＯセンター）

市Ｐ事務局は、中学校とＮＰＯセンター内の両方にあります。皆さまの活動のお手伝いをさせていただいております。

第六〇回日本ＰＴＡ全国研究大会

日本ＰＴＡ全国協議会主催の「第六〇回日本ＰＴＡ全国研究大会」京都大会が八月二十四日（金）と二十五日（土）の二日間「いのちこころ ゆめ～伝えようつなげよう 育もう」を大会スローガンに開催されました二十四日に分科会、二十五日に全大会が行われました。分科会では、尾木ママこと教育評論家の尾木直樹氏による形骸化しＰＴＡ離れが進む現状を改善し子どもたちに役立つＰＴＡ活動のあり方を考えることを課題に基調講演も行われました。

市Ｐ掲示板

●「事業報告会～忘れないよ！ぼくたち、わたしたち」絆プロジェクトこどもふれあい事業報告会
日時 11月8日（木）18：50～20：45
会場 アイアイ鯖江・健康福祉センター二階和室
●スポーツ交流大会
日時 11月11日（日）9：00～
会場 神明健康スポーツセンター
●子育て委員会研究会
日時 11月25日（日）14：00～15：15
テーマ「強くたくましい 人間力を培う教育」
講師 児島興平氏 大阪科学技術センター顧問
福井大学前学長、京都大学、福井大学名誉教授
会場 エコネットさばえ（鯖江市環境教育支援センター）2階体験学習室
●12月総会
日時 12月7日（金）18：30～
会場 富士屋会館

福井県ＰＴＡ連合会

●第54回福井県ＰＴＡ連合会研究大会
「子どもたちの幸せみんなでサポート ～笑顔とありがとうがこだまするように～」
「一筆啓上・我が家の三原則」表彰式
委員会発表 いじめに命
テーマ「いじめについての対策を考える！」など
講演 川本真琴・一途 歌とトーク
日時 12月8日（土）13：00～16：00
会場 福井県生活学習館（ユー・アイふくい）多目的ホール
●福井県ＰＴＡ連合会家庭教育フォーラム
日時 平成25年1月31日（土）13：00～15：50
講師 小野田正利 氏 大阪大学大学院人間科学研究科教育制度学研究室教授（教育学博士）
会場 福井県生活学習館（ユー・アイふくい）多目的ホール

編集後記

広報委員会

http://www.sabae-npo.org/cpta/
さばえPTA 検索

ふれあい事業に参加してレンズを通してですが、参加してくれた子供達の行く前と行った後の表情が、大きく変わったのを感じました。すごし、自信を持っているようにも思えました。全ての方々に感謝しております。関係スタッフの皆様大変お疲れ様でした。市Ｐ連の事は、ｈｐでも掲載しております。どうぞご覧ください

広報委員長 島津 修一

東日本大震災復興支援事業

絆プロジェクト こどもふれあい事業

平成24年8月17日(金)～19日(日)

鯖江市PTA連合会が主催で、東日本大震災復興支援事業　「『絆』プロジェクトこどもふれあい事業」を八月十七日(金)～十九日(日)で実施しました。

この事業については、昨年、実施した「メッセージ付ノート」を届ける事業に引き続いて、岩手県大船渡市に行ってまいりました。今年は市内の子どもたち(中学生)を連れて訪問し、ボランティア活動を通じて今尚、仮設住宅にお住まいの現地の人たちとふれあい、見て感じることで思いやりの心、助け合いの心を育み、そして参加できなかった友達にも東日本大震災の事を決して忘れてはいけないという事や、人と人との深い「絆」を伝える事などを目的に企画いたしました。

まずは、中学生ボランティアを募集すると同時に、現地に配布する「メッセージ付元気うちわ」を作成しました。鯖江のイメージ印刷の入った「元気うちわ」に、市内小中学生にお願いをしまして、子供達が書いた被災地の方たちへのメッセージシールを二、五〇〇枚、手分けして貼りました。貼ったシールの中には、上手なイラストや、勇気づけるメッセージがたくさんあり、鯖江の子どもたちの気持ちがひしひしと伝わってきました。そして完成後、会長含め数人で、打ち合わせも兼ねて大船渡市の方々へ先に届けました。

募集した内十七名の中学生ボランティアとスタッフも決まり、当日行うボランティア活動の事前説明会を二回に分けて行いました。まずは、つつじの苗のプランター作り、流しそうめんの手伝い、現地の子どもたちと行う「ユニホック」というスポーツ等を体験し緊張気味の子供達も少し打ち解けてきたようです。現地へ運ぶ物資もみんなで積み込みました。

いよいよ当日(八月十七日)です。午前六時出発式で鯖江市長様にご挨拶を頂いた後、「記念撮影をしバスに乗り込みました。ここから約十二時間(約八三〇km)の道のりです。

バスの中は、静かな時もあり、ビデオなどで盛り上がる時もあり、参加中学生もところどころ仮眠を取ったりして、出来るだけ体を休めていました。具合の悪い子もなく、無事、夕食とお風呂を頂く五葉温泉(岩手県大船渡市)に予定通り到着し、その後宿泊先となる赤崎地区公民館へ更に移動しました。移動中、震災時の映像をまとめたビデオを車内で観て、震え上がるほどの恐怖を感じました。

到着後すぐに、被災された三浦和士様からの実体験に基づく防災学習が始まりました。「現地の人は津波が来ることはいつでも予想されていた」「津波を甘く見ていた」「何はなくとも逃げる」「相手を思いやる」「被災後この公民館に三〇〇人ほど避難していた」「お風呂に二ヶ月入れなかった」「水が出ないのでトイレに困った」など、正直、質問すらできないほどの貴重なお話をお聞きしました。

二日目(八月十八日)ボランティア活動の日です。早朝から、赤崎小学校PTA会長の千葉靖様からのご厚意で、被災現場をバスで巡回し説明をいただいたり、震災当時の事を実体験を基にお話しいただきました。参加者はやりきれない思いと共に、復興に向けての取り組みについて真剣に耳を傾けていました。

千葉さん

三浦さん

防災学習会

スケジュール

8/17(金)	6:00 ～	集合・出発
	6:00 ～ 19:00 頃	大船渡市へ　バスにて移動
	19:00 ～ 19:40	到着後 防災学習会 現地の方のお話し
	21:00 ～	就寝 ※宿泊予定地・・・・赤崎地区公民館大広間での宿泊
8/18(土)	9:00 ～ 12:00	陸前高田市・大船渡市(車窓または下車) 仮設住宅清掃や つつじ植栽などのボランティア活動
	12:00 ～ 13:30	流しそうめん等昼食
	13:30 ～ 16:00	ふれあい交流
		移動
	21:00 ～	就寝　※宿泊予定地・・・・研修施設
8/19(日)	8:00	バス出発　一関市から鯖江市へ
	8:00 ～ 21:00	バス移動(社会勉強含みます)
	21:00 頃	鯖江着・解散

その後会場となる蛸ノ浦小学校に到着。初めて見る校庭一面に立ち並ぶ仮設住宅にお住まいの方々に出迎えられ、早速準備に取りかかりました。現地の方への挨拶を終え事前説明会通り班で活動しました。つつじのプランター作り、道路への砂利運び、草刈など聞いていないような事でも、現地の方とふれあいながら、子供達は一生懸命取り組みました。おばちゃんに何かを話しかけられている子や、おじさんに砂利をすくう手ほどきを受けている子など、楽しく交流しながら実践できたと思います。つつじもプランターに一二〇個みんなで植樹し、仮設住宅の方々の玄関や、蛸ノ浦小学校・赤崎小学校・赤崎中学校の周辺などにお配りし、癒しの空間をご提供しました。また、昼食の「流しそうめん」では、大勢の人達に来て頂いて、そうめんを流す子供達も張り切っており大いに盛り上がりました。大船渡市では流しそうめんをする機会がなく、興味津々で笑顔あふれる時間でしたね。現地の方は、旬の地元食材を使いおもてなしをして頂きました。

たくさんのいかの丸焼きやおにぎりを用意してくれて心もおなかもいっぱいになりました。

また、東陽中学校の吹奏楽部の方も同日にボランティアで来ておられ、草刈りやつつじ植樹など活動を共にしました。その後、体育館の中におきまして吹奏楽の演奏を行い、心和むひと時でした。また、東陽中学校のご父兄の方には、流しそうめんの仕込や色々なお手伝いをして頂きまして、その節は大変有難うございました。

鯖江市遊戯業組合様から頂いたお菓子を現地のこども達に配りました。シャイな現地の子供達も嬉しそうでした。

活動が終わり、出発式では涙、涙でした。「ありがとう、また遊びに来て」「つつじが咲く頃にまた会いたいね」とか「おばちゃんまた大きくなったら必ず来るね」とかこども達は様々なことを感じ取り、心が動かされたことだったと思います。仮設住宅のおばあちゃんたちは何人も涙していました。感動の一コマだったと思います。

その後、宿泊施設にて参加者全員で「ふりかえり」を行いました。感じた事、伝えていかなくてはいけない事、絶対に忘れてはならないということ……一時間近くグループにて話合いし、心の中に強く今回の事業を植え付けた事でしょう。そしてその後、一泊して鯖江に向けて帰りましたが、この二日目の活動は忘れることのできない体験だったと思います。思いやりの心、助け合いの心、心のどこかで大船渡市のみなさんの事を忘れずにいたいものです。

そして私たちが今出来ることは、この震災をいつまでも忘れず、大船渡市の現状を伝えていくことです。復興地は元気です。笑顔あふれる温かい人たちばかりでした。まさに一日一日を生きぬいています。是非一度機会ありましたら、たくさんのみなさまに現地でふれあってほしいと切に願います。

今回色々な方に支えられ、ご支援ご協力いただきこの事業が完遂できました。関係者の皆様、本当にありがとうございました。

最後に、参加した十七名の勇者たち！もう時間がたって薄れているかもしれないですが、心のどこかであの日の事を忘れずにいてください。そしてたくさんの友達や、知り合いの方に伝えていってください。貴重な体験をさせてくれた両親にも感謝してください。本当にありがとうございました。

※東海新報より

ボランティアに汗流す

鯖江市の赤崎町の島沢仮設で